

7

35

Ⓜ

館書

函新圖京東

知

八册

七号

一架

七函

属

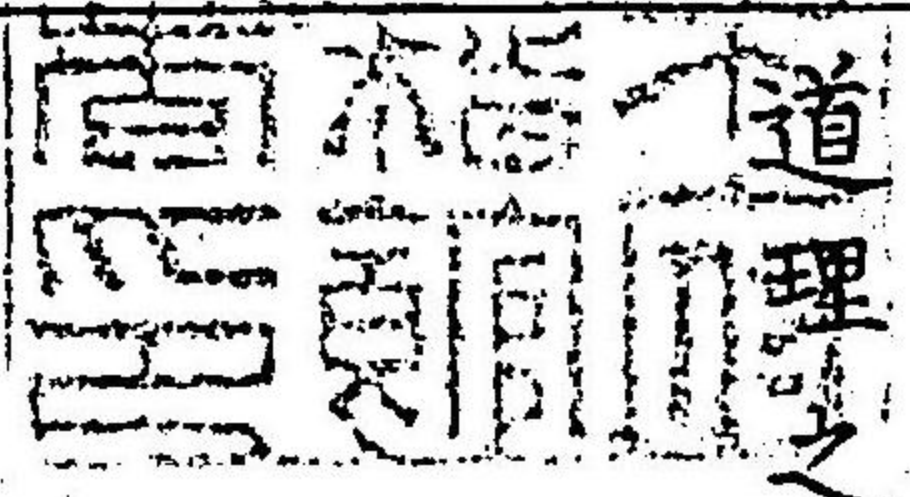
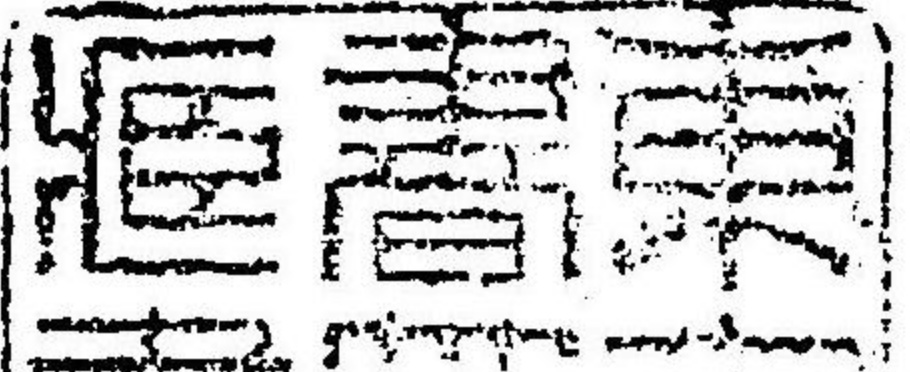
類

深間内基譯述  
于河身貫之校出

道理之世

六

7-35



道理之世卷六

深間内 基 譯述

千河岸 貫一 校正

○中編

○兩約書全書之判決

前ニ既ニ神妙異蹟及ヒ預言ノ三者ハ渾テ欺説ナルヲ論セリ然ルニ予カ此論ヲ駁スル者多シト雖其旨歸ハ皆我カ所論ノ外ニ趨テ未タ相適應セシ辯論アルヲ見ス故ニ今亦此ニ於テ

道理之世

卷六

一 雍梅樓藏梓

此事ニ就テ曉々無用ノ言ヲ費スヲ欲セス○予  
又經典中神ノ嘿示ト稱スル者ヲ掲ケ出シ兩約  
書共ニ之ヲ口實トスルノ謬誤ナルヲ論セリ  
蓋シ嘿示ハ各自ニ之ヲ造リシヤ或ハ他人ノ傳  
ハ得タル者ヲ記シタルヤト云ニ箇ノ疑問ヲ以  
テ其說ヲ顛覆セシムヘキト必セリ夫レ人ノ自  
ラ造リ自ラ見聞覺知シタル者ヲ他ノ人ニ告ケ  
或ハ後世ニ遺サントスルニハ嘿示ヲ要セス蓋  
シ彼レ既ニ之ヲ知リタル後ハ之ヲ嘿示スルニ  
及ハサレハナリ若夫此ノ如キ事ニ嘿示ナル語

ヲ用ヒハは無學無識ノ甚シキ者ナリ然リト雖  
凡經典ハ嘿示ヲ以テ詐偽ノ基礎トメ人ヲ欺ム  
クノ書ナレハ格外ナリ○是ニ由テ之ヲ觀レハ  
嘿示ハ神人相通ニ神意ヲ人ニ傳ヘラレタル者  
トスルナリ然レハ神ハ頗ル大能巨力ヲ具フル  
カ故ニ此ノ如ク嘿ノ能ク人ニ通信ヲ為スト云  
フモ人之ヲ許肯セン（蓋シ神ノ能力ニテハ渾  
ラ為不能ハサル者ナキカ故ニ）然レ凡其嘿示  
セラレシ言ハ（何等ノ事ヲ問ハス若シ嘿示セ  
ラレシ人アリトセハ）特ニ其之ヲ傳ヘラレタ

ル人ノミ神ノ嘿示ト云ヘキナリ而ノ其人ノ  
他人ニ語レハ既ニ嘿示ノ嘿示タル所以ヲ失フ  
何人ニ局ラス其心ニ於テ深ク信任スル所ノ人  
アリテ其人ノ己レニ告ケシ事ヲ信スルハ是其  
人ノ信スルノミ然レハ他ヨリノ之ヲ視レハ果  
シ其人ハ欺カレタル者カモ計リ難シ抑亦夢ミ  
言ヲ捏造セシ者ナルヘシ夫レ人有テ我ハ神ニ  
嘿示セラレタリト語ルモ其語ル所ヲ聽テ其真  
偽ヲ判決スルハ容易ナラス何トナレハ其言假

令公正ナルモ其公正ヲ以テ嘿示ノ證トナス能  
ハス然ラハ何ヲ以テ嘿示アリシヲ信スヘキ  
ナ曰ク若シ神直チニ予ニ嘿示スルヲアラハ予  
必ス之ヲ信スヘシ然レモ理ニ於テ此ノ如キ事  
アルハカラス固ヨリ以テ之ヲ嘿示ナリト信セ  
ヨト云ル予之ニ曲從スヘキ義務ナシ夫レ人ノ  
言ヲ以テ神ノ言ト為シ人ヲ以テ神ニ代テ言フ  
ハ其事甚ク不適當ニ予敢テ之ヲ許肯セズ是  
即チ上篇ニ於テ既ニ論辯スル所ナリ而シ予カ  
恭ク神ノ嘿示スル所ナリト許メ欽仰スル者ハ

（蓋レ神ノ全能ヲ以テハ成ルハカラサル者ナ  
ケレハナリ）人ノ其説ハ偽作ナランカト疑恠  
セシトテ預防スル口實トシテ用ユル所ノ嘿示ヲ  
除クノ外ノ真ノ嘿示ヲ以テス。○予嘿示ハ在ル  
者ナリト許スヘシト雖モ何等ノ事ヲ問ハス神  
ノ嘿示スルニ或ハ言語ヲ以テシ或ハ容貌ヲ以  
テスル等渾テ人ノ五官ヨリ受得スルヲ得ル方  
術ニテ密カニ之ヲ傳ヘラレタリト云テハ全ク  
信スルヲ能ス神ノ人ニ嘿示スル方術ハ特リ天  
地萬有ヲ肇造シ之ヲ經綸スルノ大功業中ニ顯

然タル者ト外ナラス而シテ人此ニ逆ヘハ心ニ慊  
カラサルヲ覺テ恰モ善良ノ人ヲ欺ケル時ノ如  
シ。○凡世ヲ欺キ民ヲ誣シ最モ厭惡スヘク恐悸  
スヘキ暴惡ト禍害ノ生スル原因ハ此嘿示ト嘿  
示ノ宗教ナリ其言タルヤ神ノ明德ヲ覆蔽シ人  
ノ道義ヲ壅塞ス豈懼レテ且遠サケサルヘケン  
ナ而シテ人ノ世ニ在ル常ニ希望シ或ハ享受スル  
所ノ安全幸福ニ害アルヲ亦焉ヨリ甚キ者ナシ  
我以為テ摩西約書亞撒母耳及ヒ其他經典ノ預  
言者輩ヲノ其口ニ聖神ノ嘿示ヲ陳述シ世人ニ

信セシノンヨリハ寧ロ（若シアル者トセハ）  
 一千ノ魔神ヲ來生セシノ公然世ニ魔ノ教法ヲ  
 播宣シ人民ヲ倡導セシムルノ勝ルト為スニ如  
 カスト○彼ノ男女ヲ問ハス老幼ヲ論セス横ニ  
 害虐ヲ加ヘ慘毒ヲ人間ニ流カレ都邑ヲ焚燬シ  
 屋宇ヲ破壊シタルヤ皆其原因ハ宗徒カ嘿示ト  
 名クル者ヲ口實トスルニ歸ス神自ラ人ニ傳フ  
 ルニ此ノ如キ跡令ヲ以テセシ者ナリト信スル  
 ニ由テ竟ニ此大禍害ヲ醸出セリ蓋シ舊約全書  
 嘿示ノ經中ノ詐偽ハ新約全書ノ根本トナリ新

約ノ詐偽ハ舊約ノ結果トナレリ○耶蘇宗徒其  
 己カ宗門ヲ誇説スルヤ必ス口實トノ云フ我カ  
 耶蘇教ハ刃ヲ以テ弘宣セシ宗教ニアラスト然  
 リト雖此言ハ果ノ何ノ時代ヲ指ノ云フヤヲ  
 知ラス彼ノ十二門徒ノ如キハ固ヨリ微賤ノ者  
 ナレハ兵力ヲ以テ宗教ヲ宣布スルハ為シ難キ  
 一ナレバ僧侶ノ既ニ威權ヲ持スルニ及テハ刃  
 ノ威ヲ用ヒタルヲ幾干ノヤ其跡歴々トノ史冊  
 ニ盈テリ誰カ之ヲ知ラサル者アラムヤ蓋シ彼  
 ノ馬哈嘿ハ頗ル暴威ヲ振テ己カ教宗ニ背ク者

ヲ討伐セシモ猶ホ耶蘇教ノ戦闘ニ過クル所  
ルヲ見ス○彼得ハ祭司長ノ從僕ノ耳ヲ斷テリ  
馬太傳第二章第六節ヲ見ヨ此言若シ實ナラハ彼レハ其  
僕ノ頭ヲ斬ルヤモ亦知ルヘカラス且之ニ假ス  
ニ威カヲ以テシ以テ其志ヲ逞フセシメハ其主  
ノ首ヲ斬ルヤモ亦計ルヘカラス其他耶蘇宗ハ  
舊約書ニ根據セシ者ナレハ彼ノ舊約書滿篇全  
ク刃ニ依テ弘宣セシ教ナリ抑兵ハ兇器ナリ若  
シ誤テ之ヲ用ユヘカラス所ニ用ヒハ是兵ハ  
恐ルヘキ者ニアラスノ宜ク廢スヘキ者ナリ猶

太人ハ宗派ヲ改ムルヲ欲セ、偶、異宗異教ヲ信  
奉スル者アレハ必ス盡ク之ヲ殲戮ス夫レ舊約  
ハ父ナリ新約ハ子ナリ而メ二書共ニ神ノ嘿示  
トス耶蘇宗徒此兩約書ヲ講究レ傳教師ハ此二  
書ニ由テ説教ス然レハ耶蘇宗教ノ骨目肝腑ヲ  
ル者ハ兩約書ナリ彼ノ宗徒假令我々宗教ハ刃  
ヲ以テ弘布ヒシ者ニアラスト云凡豈許諾スル  
ヲ得ハヤ○當時屢、耶蘇宗徒ノ為メ、虐殺セ  
ラレシハ、カツケル、宗徒ナリ蓋シ此宗徒ハ殺戮  
ヲ受ケシ所以ハ他ナシヨーストアトハ、示ノ、宗教ヲ信

セスノ天地ノ締造ヲ以テ真神アリ此徒ハ甚  
ルヲ認知スルヲ真義トスル宗派ナリ  
タ耶蘇教ノ疑謬ノ經典ヲ呼テ死語トス思フニ  
此徒ノ經典ヲ死語ト云シハ却テ允當ニ庶カ  
ラン ○夫天地創造ノ神績ヲ尊信ソ後人偽造ノ  
謬説ヲ駁シ厄害災殃ヲ世ニ及ホヒシ原因ヲ除  
却セント欲セハ凡テ嘿示ヲ教旨トシタル宗派  
ヨリソ世ニ殖シタル禍根ヲ拔クニ在リ然ルキ  
ハ嘿示ノ宗教ヲ異端トシ之ヲ掃攘スルヲ上策  
トス我輩ハ彼耶蘇宗徒ノ口實トスル嘿示ノ宗  
教ヨリ何等ノ事ヲ學習シ得タルヤ未タ毫モ人

類ノ為メニ重要ナル者ヲ學ハスノ其學ノ所ノ  
者ハ神ノ明德ヲ覆蔽スル者ニ過キス舊約書中  
誨ユル所ノ者ハ何ソヤ是即チ兇悍刻虐ナル事  
跡ニ過キス新約書中ヨリ得ル者亦他ナシ神ハ  
己ニ婚姻ヲ約シタル婦女ニ通ソ色ニ耽ラシメ  
シヲヲ信スルヲ以テ耶蘇教ヲ信スルノ第一義  
トスルニ過キス ○經典ハ道義上ノ規律ナク記  
載シタル書ニソ其道義トスル者ハ只其專ラ口  
實トスル嘿示ニ屬スル者ニアラス抑道義ハ人  
生天然ノ心ノ歸嚮ヲ示ス者ニソ人間交際ノ一



大要務アリ而ノ苟モ之ヲ闕カハ須臾モ世ノ交  
際ヲ全フスルヲ能ハス若シ之ヲ離ルヘキハ道  
義ニハアラスナルナリ且夫レ理ハ一而已固ヨリ  
何等ノ宗教ヲ問ハス何等ノ交際ヲ論セス同一  
ニソ人ノ人タル所以ノ者ハ即チ道義ナカルヘ  
カラヌ新約書ノ如キハ此道義ニ就テハ一切ニ  
之ヲ論セス偶之ヲ云フ者アレハ特ニ之ヲ賤視  
スヘク且笑フニ堪タル者ナリ○耶穌宗教中ニ  
於テ最モ善良ナル教ト云ヘキ者ハ害ヲ被ラシ  
カ報復ヲ為スヘカラスト云教ナリ蓋シコレ箴

言ニメ其語ハ復々新約書ニ在リト雖ハ猶太ノ  
書ニアラスノヘーゲンノ教書ヨリ標竊シタ  
ル者ナリ箴言第二十五章第二十一節ニ曰ク敵  
讎ハハ則チ之ヲ飼ハ敵渴スレハ則チ之ニ飲マ  
シマヨ新約書馬太傳第五章ニ曰ク人アリ汝ハ  
ハ右頬ヲ批カハ左頬ヲ轉ハ之ニ向ヒ○此敵ヲ  
憎嫉セサルノミナラス却テ之ヲ愛スルノ説ハ  
是偽善ナルノミ夫倫理ノ正道ヲ履踐スル者ハ  
惡ヲ以テ恨ニ報セサルハ政事上ニ於テモ美事  
トスヘシ何トナレハ互ニ仇讎ヲ結ヒ相報復ス

ルハ其終極ヲ知ル能ハサレハナリ各人其心ニ於テ其怨ヲ報スルヲ以テ正トシ快トスルモ必公明無私ノ行ニナリトスヘカラス然リト雖モ若シ我カ被タル所ノ害ニ准メ其害ヲ我レニ加ヘタル人ヲ愛スルハ反テ報復ノ念ヲ熾ンニスルコトアルヘシ且敵ト云語ハ之ヲ倫理上ニ用ユレハ定メナキ一般ノ語ニ異ナルカ故ニ明カニ其所分ヲ決スヘシ若シ人自ラ敵ヲ敵トノ憎疾セサルコトハ宗教邦制其他學術上ニテ立説ノ異ナル氷炭相容レサルカ如キニ由テ相敵視ス

ル者ヲ除ク外我カ敵トスル者ヲ待ツ事ニ就テハ最モ好キ解説ヲカルヘカラス蓋シ是一身ノ安寧ヲ謀ルノ良法ナレハナリ然リ而シテ敵ヲ敵トセサルノミナラス却テ之ヲ愛スヘシト云親ヲ親ムノ心ヲ傷害ス謂フヘシ親疎ノ別ヲ混スル者ナリト而シテ自身ヲ自重自愛スルノ主意ナクシテ只敵ヲ愛スヘシト云ハ倫理上ニ於テモ道理上ニ於テモ共ニ以テ為スヘカラスルコトナリ○夫倫理ノ本分ニ於テ害ヲ為ス者ヲ愛スルハ為スヘカラサルコトナリ若シ強テ之ヲ行フニ

於テハ却テ害ヲ生スルヲ必セリ乃チ前ニ論ス  
ルカ如ク特ニ報復ノ念ヲ熾盛ナラシムルニ足  
ルノミ箴言ニ又謂ハルヲアリ曰ク彼レハ我レ  
ニ為スカ如ク我レ亦彼レニ為スハシト此言ヤ  
前ノ敵ヲ愛スルノ言ト符合セス何トナレハ渾  
テ人ハ人ヲ親睦セスノ罪惡ヲ犯シ自ラ人ノ親  
愛スル所トナラシムヲ希望スル者ナキカ故ナ  
リ○敵ヲ愛スルノ教ヲ説ク者ハスヘテ横虐ノ  
舉動ヲナス人ナリ何トナレハ此説ハ固ト表面  
ヲ飾リタル者ナリ而シテ其表面ヲ塗抹スル者其

實質ハ必ス其塗抹スル所ニ反スルハ自然ノ理  
ナリ予ニ於テハ其敵ヲ愛スルノ教ハ偽善ヲ以  
テ人ヲ欺ク者ナリト監定セサルヲ得ス然シテ  
カラ人或ハ黨與ヲ嘯集シ米國及ヒ佛國ノ革命  
亂ニ當テ殘殺ヲ施シタル人ハ其世ニ存ノ幸榮  
ヲ享クル能ハス且何等ノ時ニ際スルモ害ニ酬  
ユルニ害ヲ以テスルハ正理ニ悖ルヲナリト雖  
モ善ヲ以テ惡ニ報ヒ德ヲ以テ怨ニ復ヘスモ亦  
人道ニアラス此ノ如キ事ヲナスハ何ノ時世何  
ノ事情ヲ問ハス人ノ本心ニアラスノ各自ノ本

心ヲ壓抑スル偽善者ナリ而シテ此ノ如キ者ヲ以テ  
 テ嘿示宗教ノ一分ニ備フル者トスル予謬誤ノ  
 名ヲ以テ之ニ命セサルヲ得ス我輩ノ欲ヲ防キ  
 心ヲ小ムルニ就テハ神ノ明德ヲ懼レ且模倣ス  
 ハシト雖モ耶蘇教ニ於テ神ヲ模範トスル者ハ  
 人ノ性ノ善ナルニ由テ人ヲ愛セス人ノ惡念ア  
 ルニ由テ人ヲ愛スル者ナル耶○若シ人間ノ形  
 狀ヲ以テ考ルキハ嘿示ノ如キトアルハキ理ナ  
 シ且人ノ嘿示ヲ知り嘿示ヲ信スルトテ要スル  
 ハ果シ何ノ為シヤ予之ヲ言ハシ我輩觀ル所ノ

天地萬有ハ神ノ所在ヲ以テ我輩ニ知ラシムル  
 為メノ嘿示ナラスヤ而シテ其教タルヤ偽作者カ  
 嘿示ヲ口實トシ經典ト稱呼スル書中ニ載スル  
 者ニ比スレハ太々確實著明ナル證徴ニアラス  
 ヤ若シ人各其然ル所以ヲ知ラハ其中心ヨリ自  
 ラ固有ノ良徳ヲ發揮スヘシ○予是ニ於テ神ノ  
 此世ニ在ルト否トテ決スルニ充分ナル確證ヲ  
 得タリトス且其神ノ在ル所ノ形狀ト規律ニ就  
 テハ人智ヲ以テ理解スルト能ハサルノ理アリ  
 即チ我人ハ此世ニ於テ如何スルモ理解スル

能ハサルモ我人ハ已ニ神ノ茲ニ在ルノ實ヲ知  
 ル猶ホ我カ生活スル所ノ生力ハ我カ生命ヲ維  
 持スル作用ヲ起ス本ナルヲ知ルカ如シ故ニ  
 神ヲ信スルハ假令他ノ主旨ヲキモ其能力ハ能  
 ク天地萬有ヲ維持スルニ足ルヲ信スヘシ何  
 トナレハ我レ其力ノ能ク成スヘキヲ知ルカ故  
 ナリ其我輩ノ信スヘキ所ノ者トハ何ヲ指スヤ  
 曰ク只我カ知見スヘキ所ノ實物ノミ若シ其他  
 ヲ信スルキハ憫ムヘキ宗教ノ奴隸トナリテ我  
 カ真信ト善行ハ忽チ其功德ヲ失墜セシ○耶蘇

宗教ト異ナル教ハ欺詐ナキト不トヲ以テ辨知  
 スルニ足ル且必ス人ノ知ラントヲ要スル者ナ  
 ラハ神必ス之ヲ一般人類ニ嘿示セサル物ナシ  
 即チ天地萬有ハ耶蘇徒目ノ異教トスル所ノ宗  
 旨ニテ用ユル經典ナリ茲ニ於テ神ノ自ラ造ル  
 所ノ書ヲ讀ミ又神ノ世ニ存在スルノ真確ナ  
 ルハ其能力ノ恒久不易ナルヲ以テ知ルヘシ舊  
 新兩約ノ書ノ如キハ凡テ實造ニ過キサルヲ  
 モ明知スヘシ我カ此事ニ就テ嘿スルヲ得ス下  
 ニ陳述スル説ヲ看テ人若シ沈思酌量ノ其意ヲ

領スルアラハ必ス真神ヲ信スルノ斤量ヲ増サ  
 ン何トナレハ事物ヲ造ルト不トハ我人ノ信疑  
 ニ關ラス我人ノ在ル所其形狀即チ左ノ如シ人  
 ハ一身ノ自由ヲ行フヲ以テ本分トス而ソ世ニ  
 神ナキ者ソ如クノ中心嘗テ忌憚スル所ナキ者  
 ハ愚人ニソ學士或ハ賢哲ノ名ヲ與フヘキ者ニ  
 アラサルナリ○然レモ其神ヲ信スルノ信ハ耶  
 蘇教ノ小説其經典中ニ記スル所ノ兇虐ナル行  
 事又ハ新約書ノ曖昧ナル事實ト意味ナキ言ヲ  
 以テ攪擾セラレテ大ニ信ヲ醜薄ナラシム是ヲ

以テ人ノ神ヲ信スルノ心ハ恰モ淡然タル一抹  
 ノ輕煙ノ如シ總テ教家ノ清亂シタル史記ト猥  
 陋ナル小説ノ經典ト名クル者ヲ見ルハ其之  
 ニ信徒スル能ハサルニ由テ竟ニ全ク神ヲ弃擲  
 セントスルノ意ヲ生セシム然レモ真ニ神ヲ信  
 スルハ他ノ物ヲ信スルト殊ナル者ニテ如何ナ  
 ル事ヲ以テモ其信ヲ攪動スヘキ者ニアラス彼  
 ノ教徒三体ノ神ヲ立ル者ハ一神ヲ信スルノ信  
 ヲ薄フセリ夫所信ノ体ヲ増加スルハ即チ信ヲ  
 分散スル者ナリ而ソ何等ノ事ヲ問ハス之ヲ分

テハ其勢隨テ薄弱セサルヲ得ス○三体ノ神ヲ  
立ツル等ノ方便ニ由テ宗教ハ形已上ノ者ト化  
シ、真理ヲ失ヘリ正道ハ想像ヲ以テ結構スヘキ  
者ニアラス其想像トハ何ソヤ即チ信ヲ云フナ  
リ此信ノ原因ハ放縱無誓ナル假ノ想像ニ出ツ  
何トナレハ人ノ神ニ代テ説教シ殺戮ヲ擅ニス  
ルヲ以テ神恩ヲ報スルノ目的トシ又傳教師ノ  
其身ヨリ血ヲ灑クヲ以テ光榮ヲ感得スト云フ  
ヲ口實トシ所謂マルチルノ説ヲ主張スルニ至  
レリ又彼徒刑ニ遭フトニ就テ愚ナル教ヲ説キ

以テ耶蘇ノ刑ニ罹テ死セシトテ稱讚ノ之ヲ學  
ヒシニ由テ猶太人ハ自ラ其身ヲ擬ノ罪惡ノ人  
ナリトス○總テ古今世ニ弘宣スル所ノ宗教中  
耶蘇宗ノ如ク人ノ神ヲ信スルノ心ヲ消損シ人  
ヲ訓迪スヘキ教理ナク其所説自ラ乖錯ノ常理  
ニ及戻スルヲ甚シキ者アルヲ知ラス之ヲ信セ  
ント欲スルモ其言太々齟齬スルヲ奈何シ之カ  
證ヲ取ント欲スルモ為スヘカラサルヲ多キヲ  
奈何シ之ヲ行ハントスルモ符合セサル者ノミ  
ナルヲ奈何シ入ヲノ終ニ精神恍惚意想情騰ト

其神アルヲ知ラサルニ至ラシムルノミ其力  
 ヲ用ユル所ハ務メテ横虐壓制ヲ事トシ僧徒ハ  
 利ヲ求ムル滓薄ノ心術ヲ以テ專ラ詐偽ヲ施ス  
 ト雖凡一モ人類固有ノ良心ヲ暢發スルノ端緒  
 トナル者アルヲナシ○從古傳來ノ宗教中確乎  
 タル現證ヲ取リ以テ其原因ヲ神ニ歸スル者ハ  
 特ニテイスラム異教ノミナリ此宗教ハ最モ教中ニ  
 於テ優等ナル者トスヘシ然リト雖凡純粹ノ異  
 教ハ擅制政府ノ用ニ供スル能ハス又其宗教ハ  
 機詐ヲ以テ維持スル者ニアラス然レハ之ニ混

スルニ人造ヲ以テセス只其一部分ヲ教育家ノ職  
 務トスルトハ僧侶ノ私欲ヲ遂クヘカラス若シ  
 教育家自身ノ職務ト教義トヲ联接シタル中其一  
 部ハ政府ノ如キ者トナリ宗教ト邦制ト奇ナル  
 接合ヲ作シ宗教ト政治トヲ聯絡セハ其弊ヤ人  
 知ヲ昏迷シ自由ヲ羈束スルノ具トナルノミ○  
 人々神ヲ信スル自ラ正確ニシ且精神ニ徹到ス  
 ル片ハ必ス倫理ニ乖戾スルヲナク其生涯ヲ了  
 スルヲ得ニ是其信徳ニ由テ正道ヲ履踐スルヲ  
 得ヘケレハナリ此ノ如ク人々神ヲ畏懼シ身ヲ



自重シ自ラ欺キ神ヲ欺ク一ヲハ一事トソ為ス  
 一ナキニ至ラン此信ニ依テ之ヲ得ントセハ自  
 ラ深ク省察ノ他ノ力ニ依リ他ノ言ニ依テ信ヲ  
 取ラサルヲ以テ緊要トス其能ク之ヲ訓誨スル  
 ノ宗教ハ他ニアラス只一ノ異教ノミ ○然ルニ  
 耶蘇宗ノ三神一致ノ教ニ隨ハハ神ヲ三分ノ一  
 部ハ死ニタル人ノ位地トシ他ノ一部分ハ靈魂  
 トナル夫レ我輩ノ信ハ此ノ如キ輕淺ナル欺妄  
 ニ固著スル能ハス ○耶蘇教及ヒ其他人間ノ發  
 明ニ係ル宗教ニテハ政府擅制ヲ以テ人民ヲ統

馭スルニ其人民ヲノ人間各自ノ權義アルヲ  
 知ラシメサルヲ欲スルカ如ク人々ヲノ神ノ何  
 物タルヲ知ラシメサルムヲ計ル是ノ政是ノ  
 教共ニ以テ暴虐ト謂ハサルヘカラス何トナレ  
 ハ此ノ如キ政教ハ互ニ相資テ以テ人民ヲ愚ニ  
 スルヲ務ムルカ故ナリ又彼ノ耶蘇宗ノ神學  
 ハ一モ學ト稱スルニ足ル者ナシ其學根柢ナケ  
 レハナリ又此神學ニハ不易ノ真理ヲ有セス一  
 モ信スヘキノ價直アル者ナシ書中一モ年月ノ  
 證スヘキナク一モ確信スベキ所ナシ夫レ何等

ノ學ヲ論セス、易フヘカラサルノ真理ヲ以テ基礎トスルニ非レハ決ソ學科トシテ學フニ足ラス耶蘇宗教ニ於テハ一モ此ノ如キ真理ナシ故ニ其宗教ニ關スル書ハ學科トシテ講習スルニ足ラス○今時ノ教徒汲々學々トシテ神學ヲ兩約書ニ依テ講究センヨリハ（蓋シ其意味ハ屢反對シ其價直ハ真ノ證徴ナキ者ナリ）寧ロ神造ノ天地萬有ナル活經典ニ就テ推覈實測スルニハ若カス我輩ノ發覺スル所ノ真理ハ不朽ニシ且其本源神ニ出ツル者ナリ是即チ百般ノ學術賴テ

以テ基礎トスル所ニシテ又真ノ神學ノ淵源ナリ○我人神ヲ知ラントモハ其締造スル所ノ成績ニ由テ之ヲ知ル其物ニ依テ盡ク其然ル所以ヲ理解スル能ハスト雖凡當ニ神ノ之ヲ以テ人知ラ啓迪スル所ノ定理ヲ窺知スルノミ若シ人神ノ測ルヘカラサル材カラ聊カ事物ニ就テ理解スヘキ知巧アルニナラサレハ神ノ何者タルヲ考ル能ハス又其神ノ為ス所ノ規律ノ正シキト其方法ノ縝密ナルトヲ知ルニアラサレハ神ノ材能ノ大ナルヲ知ル能ハス學術ニ由テ發揮ス

ル所ノ知識ハ即チ此神ヲ窺知スルノ知識ヲ生  
セシム何トナレハ神ハ則チ學術ノ造物主ニシテ  
獨リ其學術ヲ勤ムルニ由テ恰モ神ト晤對スル  
カ如クニ人々神造ノ經綸ヲ見ルコトヲ得ヘシ  
○人其學力以テ天地締構ノ全分ヲ概知スヘキ位  
地ニ至ルヲ得ハ四時ノ代謝ヨリ地球旋轉ノ順  
序ヲ誤ラサル星辰ノ碁峙ソ然モ相吸引スル關  
係ヲ見ルヲ得ハ全世界ヲ統宰ノ之ヲ整肅スル  
所ノ造物者設立ノ規律ノ縝密ナルヲ知リ得ハ  
假令何ノ宗教ノ神學ヲ問ハス其神學者流所說

ノ神ノ材ト云ヒ神ノカト云者ト大ニ異ナルヲ  
知ラシ然ルキハ人必ス學術ニ由テ有スル所ノ  
知識ト総テ器械上ノ技術トニ由テ知ル所ハス  
ヘテ真ノ本源ヨリ流出セシ者ナルヲ知ルヘシ  
其學ハントスル所ノ志ハ其見ル所ノ廣キニ從  
テ激勵シ事物ニ由テ微効ヲ得其知識ヲ擴充ス  
ルニ隨テ神恩ヲ感謝スルノ心愈深ク其遵奉ス  
ル所ノ宗教ハ能ク神理ト密合シ其心行ヲソ日  
ニ善良ノ域ニ進マシムルニ至ラニ耕耘學術器  
械等ノ技藝ニ就テ有スル所ノ天地ノ實理ト接

合スル者タル人間萬種ノ職業ハ渾テ神ニ由テ  
啓迪セラレシ者ナレハ是皆神ノ賜賚スル所ナ  
ルヲ知テ之ヲ謝スヘキノ理アルヲ覺ヘン是耶  
蘇宗神學ノ說教ヲ聞クニ勝ルテ幾許ノヤ苟モ  
此大眼目ヲ開キ大ナル思想ヲ生セハ天地ノ大  
結構ハ大ニ神恩ヲ感謝スルノ心ヲ激勵ス新舊  
約書ハ特ニ神ヲ污穢スルコトヲ激勵スルニ足ル  
ノミナリ假令世人今我カ論セシ所ノ真意ニ違  
スル能ハストモ必ス此事ノ真ナルヲハ證シ得  
ン何トナレハ天地ヲ持久スル所ノ真理ヲ知ル

カ故ナリ我人ハ神ノ事業ハ一ノ模形ヲ以テ表  
示セララル、ヲ知ル又天地ハ之ト同キ工夫ニ由  
テ締構セル者ナルヲ知ルヘシ夫レ我輩カ一  
ンチヲ量リ一アルクヲ算スルト同キ法ヲ以テ  
數百万里ノ距離ヲモ推測スルコトヲ得ヘシ直徑  
一インチノ圈ハ船ノ大洋ヲ行ク所ノ進路ヲ縮  
小ノ之ヲ紙上ニ畫シ顯ス所ノ模形タル三角ト  
同キ測量術上ノ性質アリ而シテ若シ之ヲ天体ニ  
適合セシムルハ蝕ノ未タ起ラサル前ニ預メ  
其月日時刻ヲ知ルヲ得ヘシ蓋シ是等ノ天体ヲ

測ル幾百万里ヲ隔ルト雖尺毫釐ノ差謬アル  
ヲナシ是此知識ハ其本源神ニ出タル者ニソ人  
ノ之ヲ學フハ天地萬有ナル活經典ヨリ得ル者  
ニソ人造タル宗教ノ經典ヨリ學フニアラス宗  
教ニテ所謂ノ經典ノ如キハ以テ人ノ教トスル  
ニ足ラサル者ナリ  
經典ノ作者ハ創世記ノ第一章ニ於テ天地創  
造ノ談ヲ揭録ノ後人ニ示ス其記タル一モ信  
スルニ足ル者ナシ作者ハ無學ナルヲ證スヘ  
キノミ即チ曰ク太陽ノ出ル前ニ三日三夜即

チ三朝三夕アリト笑フヘキ哉此言ヤ夫レ大  
陽ノ出没ハ晝夜ヲナス所以ナラスヤ日出日  
没ハ朝ト夕トラスヤ且其宜ク光アルヘシト  
云フカ如キ想像ヲ以テ神ヲ説ク恰モ兒童ノ  
見ニ類ス  
學術及ヒ機械學ノ知識ヲ得レハ之カ為メニ生  
涯ヲ經營ノ快活ニ光陰ヲ消スルヲ得ヘシ苟  
クモ之ヲ缺クハ人ニソ自然ノ生力ヲ有スル  
他ノ動物ト異ナルナキニ至ラン古來ノ賢人達  
士其心思目力ヲ竭シ實物ニ就テ研究シ竟ニ地

上ニ在テ高遠ノ天体ヲ測算ノ精微ヲ極ムルノ知識ヲ發揮セリ蓋シ此ノ如ク知ヲ開キ理ヲ究メシ人ハ摩西・アラス先知ニ・アラス預言者ニ非ス耶蘇ニモ・アラス夫レ神ハ大機械師ナリ大理學家ナリ百科ノ學術者ノ元祖ナリ然ラハ我輩其主宰ヲ尊敬ノ少ラクモ其元祖ヲ遺忘スヘカラス○我輩今日若シ機械力ヲ假ルノ術ナキハ天地ノ大接合即チ大機械ニ就テ予カ前ニ論スル所ノ如キ知識ヲ得ルニ由チカラシ我人今有スル所ノ機械上ノ知識ヲ以テ機械ヲ製造

スルノ工夫ヲ領得シ其領得スル所ノ工夫ハ忽チ之ヲ實際ニ施行スルヲ得ヘシ天球儀ト名クル摸形ヲ以テ世界旋轉ヲ試檢スレハ忽チ其精神ニ感發スヘシ此ノ如キ物体及ヒ此ノ如キ術業ハ人自身ノ為メニ重要ナルノミナラス心自ラ快適ニシ人ノ靈知ノ貴重ナルヲ知リ其神ヲ信スルニ於テ頑愚ナル傳教師ノ奮新兩約書ニ由テ説ク者ニ比スレハ其浩益アル固ヨリ同日ノ論ニアラス若シ人ノ法ヲ説カサルヲ得サルハ即チ此真正ノ活經典ニ由テ善良ノ教ヲ宣

説スヘン ○天地萬有ノ經典ハ盡ルヲナク易ル  
 一ナキ教書ニノ學術ハ天地ヲ測算シ動物ノ死  
 生植物ノ榮枯無機体ノ性質等各部分ヲ結合シ  
 理學ニ達スルヲ待テ身ヲ神ニ歸スヘキヲ知り  
 其自ラ善ニ移ルヲ待テ天ノ尊キヲ知ル夫レ世  
 人ノ識見此ノ如ク更革一新スルキハ各傳教師  
 ハ理學ノ博士トナリ教會ノ堂宇ハ學術ノ蠻舎  
 ト為ルニ至ルヲ疑フヘカラス ○宗徒許多ノ殘  
 暴ト神ヲ汙瀆スル所ノ欺偽ト皆之ヲ神ニ托シ  
 行フ者是學術ノ變易スヘカラス 規律嚴整ナル

真正ノ道理ニ由ラスノ後入發明ノ嚙示ト名ク  
 ル造説ヲ成スニ由ル猶太人ハ神ヲ以テ其宗教  
 ヲ弘布スル為メニハ之ヲ信セサル人民ヲ害ス  
 ル者トシ耶蘇宗徒ハ神ハ自ラ其身ヲ殺シ血ヲ  
 灑キタル者トシ更ニ新宗ヲ創立シ猶太教ヲ  
 壓倒シ且之ヲ驅攘ス是等ノ事ヲ成スモ亦之ヲ  
 口實トスルモ且之ヲ許シ之ヲ信スルモ共ニ以  
 テ全能主ヲ無力無材ト看做ス者ト謂フヘシ且  
 神意豈屢悔改スルアル者ナラムヤ其心ノ變更  
 スルハスヘテ思慮ノ未タ熟セサルニ出ツ理學

者ハ必ス大地ノ規律ノ變スヘカラサルヲ知ル  
蓋シ學術ノ大綱ニ於テモ事物ノ性質ニ於テモ  
決シ變スルコトナシ然ラハ何ソ獨リ神其心ヲ人  
ニ由テノミ變スル者トスルヲ得ムヤ○我レ茲  
ニ於テ此論ヲ終ヘント欲ス予先キニ兩約書ノ  
偽作タルヲ示セリ而ソ予其證ヲ掲ク且予カ考  
案ヲ陳フ即チ看官ニ示スニ此二書ノ歸著ヲ以  
テセント欲スレハナリ夫レ各個ノ邦制ニ關ス  
ルモ宗教ニ關スルモ予カ論スル如ク人各自由  
ノ思想ヲ以テ論ヲ立テ、偏黨ノ私情ナキハ

竟ニ真正ノ道理ノ世ニ布及スルニ至ラント  
期スヘシ

○夢之論

夫夢也者人ノ眠ニ就ク時ニ於テ見ハル、者ナ  
リ今其夢ノ由テ生スル所以ヲ解明ヒント欲セ  
ハ人ノ精神分合動止アル理ヲ知ラサルヘカラ  
ス○人ノ精神三部ヲ分チ三個ノ能力ヲ備フ一  
ヲ想像トシ一ヲ分別トシ一ヲ記臆トス精神ノ  
作用ハ此三能力ヨリ生ス晝間起居ノ時ハスヘ  
テ三能共ニ活潑ナラサルナシト雖モ睡眠ノ際



ハ假令活潑ナル者アルモ至テ稀ニソ必ス十分ノ作用ヲ起サス故ニ夢中ノ情状ハ甚ク正シカラス條理ニ契ハサル所ノ事物ヲ幻見スル者ナリ○精神ノ府ハ腦ナリ之ヲ解剖シ認ムヘキ證跡ナシ是固ヨリ死体ニ於テアルヘキ理ナキ者ナリ然ルニ偶ニ生活シタル人ニ起ルテアリテ腦ハ精神ノ府タル確證ヲ得即チ腦ヲ傷害スル（例ハ顱骨ヲ缺損スル等）事アレハ賢ノ忽チ愚ニ變スルテアリ然レテ外部ヨリ傷害ヲ受クルテ稀ナリ是頂骨ハ其質堅緻ニシテ且自然ノ良

能ニテ知ラス知ラス常ニ頭腦保護ニ意ヲ注クニ由ル然レテ飲食ノ過度等ニテ身体ノ健全ヲ害スルテ往々少ナカラサレハ衛生ニ意ヲ用ヒサルヘカラス○前ニ謂フ所ノ三個ノ能力ハ腦中三所ノ部分ヲ占ム其之ヲ結構スル固ヨリ神ノ自在力ニ歸ス假令人体中筋骨ノ運動スルニ由テ精神ノ作用其外ニ見ハル、ヲ見ルト雖モ其運動知覺スル源由ニ於テハ決メ入ノ知ル能ハサル所ナリ蓋シ人身外部ノ運動ニ隨意ノ運動アリ不隨意ノ運動アリ例ハ人ノ坐スル中

起ント欲シ或ハ起ツキ坐セント欲スルカ如キ  
 手ノ執捉シ足ノ運歩スル等肢体ノ意ニ從フ  
 渾テ精神ノ命令ヲ奉スト雖凡人ノ日ニ運動ハ  
 ル千萬ヲ以テ數フヘシ其飢ニ食ヲ欲シ渴ソ飲  
 ヲ思ヒ或ハ行歩シ或ハ睡眠スル如キハ一々精  
 神預メ之ヲ命スルニアラスソ肢体自ラ各自ニ  
 為スカ如シ人若シ自ラ為サント欲スルトアレ  
 ハ全体ノ筋骨ヲ使役スルト得ルト雖凡然ラ  
 サルキハ四肢百骸ハ恰モ外若ノ如ク腦府ノ君  
 主ニ告グスソ先ツ其一部ヲ統理ソ其職務課程

ヲ勤ムル者ナリ○総テ是等ノ運動ハ其起ル源  
 因アルモ外貌ニ因テ窺知スヘキ者ナリ只腦ニ  
 於テハ然ラス之ヲ視ント欲スルモ斷テ得ヘカ  
 ラサルカ故ニ渾テ其運動ハ隱微ニソ其起ス所  
 ノ體質ハ盡ク腦腔中ニ胎メラレ暗黒ニソ窺測  
 スヘカラサル者ナリ○腦ハ一塊ヲ成シ恒ネニ  
 澄靜ナル形狀ナレトモ亦振動ヲ起ス  
 恰モ流動体ノ沸騰スルカ如クニ膨脹収縮ノ變  
 化ヲナス者ナリ又腦ハ各部分其起ス所ノ作用  
 同シカラスソ異ナル動作ヲナス即チ其動作ハ

想像ニテモ分別ニテモ記憶ニテモ人以テ然ル所以ヲ知ル能ハス其動作ノ起ル源由ヲ知ラサレハ即チ自身ノ腦裏ノ作用ハ自身ヲソ知ラシメサル者ナリ刀ノ自ラ切ラサルカ如シ○性理學ノ論ハ時トソ究理術ノ器械ノ理ニ喩フルヲ得ヘレ即チ人身中視ルヲ得ヘキ者ト不ナル者アル所ノ種々ノ機關ハ時辰儀ノ機關ニ類似ス曰ク想像ハ猶ホ時辰儀ノ全機ヲ運轉スル所ノ尤モ緊要ナル彈機ノ如シ搖錘ハ即チ其運轉ノ度ヲ正クスル所ノ平均力アレハ是分別ノ

如ク記憶ノ如シ其時鍼ト分鍼ハ動作ニ類ス其等ノ三個ノ能力ハ眠リニ就ク時ニ當リ一ハ寤メ一ハ寐ヌル等其准ニ從テ或ハ理ニ契ヒ或ハ理ニ契ハナル物ヲ見出ス又或ハ之ヲ忘失スルヲアリ或ハ之ヲ記憶スルヲアリ人若シ想像ノ未タ眠ラサル間ニハ乃チ想像ハ活潑ナリ而ソ分別ト記憶ハ其用ヲ為サス分別ノ眠ルキハ判決ノ能力休止シ記憶ノ休止スルキハ悉ク其夢タル所ヲ忘失ス若シ傍人之ヲ呼醒スキハ三能一齊ニ活動力ヲ起ス○分別ノ休止スルヲアル

ハ我入ノ時トノ未夕熟眠セサル前ニ夢ナル  
アルヲ以テ知ルヘシ彼ノ偶然ノ思想精神ニ流  
レ反覆ノ思考ヲ為ス恰モ起居ノ時ノ如シ其半  
眠半起ノ間ニ夢ナル事アル者是ナリ○想像尚  
ホ活潑ナル際ニ分別ノ已ニ眠ル中ノ夢ハ其全  
形欠損シ首尾整ハサル粗鬆ノ思想ヲ集合セシ  
者トナル想像活潑ナレハ夢境ハ随テ粗荒ナル  
者ナリ最モ齟齬ノ最モ成ルヘカラサル者ヲ夢  
ムルヲアルヘシ何トナレハ其夢境ノ順序ヲ調  
整スヘキ官能ハ不在ナル形状ナルカ故ニ例ヘ

ハ塾師外出ノ學生ノ喧噪スルカ如シ○記臆ノ  
眠ル中ハ其何事ヲ夢ミシヤヲ忘失ノ特ニ夢ミ  
タリト知ルノミ其夢ミシハ何事ナリシヤ一モ  
知ル所ナシ此時ニ專ラ活動スル者ハ反覆ノ思  
想ニ在ラスン感得ニ在リ夢中徃々辛苦難嶮ナ  
ル事ヲ見ルヲアリ此時ニ當テハ夢中ニ於テ頗  
ル恐懼戰兢ノ危害ニ瀕スルノ思ヲナス者ナリ  
○記臆ノ眠ルニ寤メテ後ニ僅ニ夢ノ淡影ヲ留  
メ時トシハ其大略ヲ知ルヲアリ此ノ如ク所以  
他ナシ記臆ハ時トシ人ノ起居ノ際ニモ亦眠ル

「アル者ニテ時アリ自ラ何ノ位置ニ在リタル  
ヤ何ヲ為サント欲セシヤ直チニ之ヲ憶起ス能  
ハサル」アリ然レモ此記臆活潑ニテ未タ些ク  
モ眠ヲ催サ、ルキハ覺ノテ後チ總テ夢ムル所  
ノ事ヲ明瞭ニ諳スル者ナリ○然リト雖モ精神  
ノ最モ靈妙ナル「ハ夢ムル所ノ人或ハ物ノ形  
狀ヲ細密ニ映現スルノ作用アリ且動モスレハ  
數人ト談話シ或ハ問ニ或ハ答ニ或ハ告示ニ或  
ハ與ヘ或ハ取り其動作自在ナル平日起居ノ時  
ノ如シ○然レハ想像ハ精神ノ一部ニ在リ夢中

意外ノ動作ヲ起スト雖モ之ヲ起坐スレハ即チ  
忘失スル者アルヨリ見レハ想像ノ中ニ記臆ノ  
作用ヲモ備フル者ニアラス譬ハ其夢ムル所  
ノ人ノ姓名或ハ誰人ナリシヤヲ忘失セハ其人  
ノ名ヲ問ハル、モ之ニ答フル「能ハス蓋シ自  
ラ問フヘキ源由ナケレハナリ○然レモ想像ハ  
假令真ノ記臆ノ作用ヲ補給スル能ハスト雖モ  
亦記臆ノ粗ナル作用ヲ有スル者ナリ即チ入ノ  
夢ムル「決」ノ起ラサル所ノ事ヲ以テ實ニ其事  
ノ起リタルカ如ク語り或ハ未タ嘗テ知ラサル

所ノ街衢又ハ屋宇ヲ視ル前ヨリ存在セシカ如クナルアリ又夢中幻出スル所ノ境ハ未タ嘗テ識ラサル所ヲ嘗テ識ル者ノ如ク視ルアリ或ハ時トシ夢上ニ夢ヲ生スルコトアリ夢ノ人ヲ欺ムク端倪スヘカラス其夢中ニ於テ曾テ夢ミタルコトキ事ヲ夢ミシカ如ク又之ヲ記臆セシカ如ク人ニ語リシコトヲ夢ムル有リ又想像中ノ夢ハ時ニ關スル者アリ其夢ムル所ノ事情ニ就テ計リ而シ其顛末ヲ考フレハ永キ歲月ヲ閱歴セシ事ヲ夢ムルアリ○總ヘテ此ノ如キハ夢際ノ精

神ノ状態ナルカ故ニ諺ニ謂フ所ノ人ハ各ニ二十四時間ニ一回顛狂スル者ナリト云フ者宜ナル哉蓋シ睡眠ノ間夢ムルカ如キ事ヲ以テ之ヲ起居ノ際ニ行ハ、之ヲ狂ト稱センカ將シ顛ト呼ハシカ夫レ起坐ノ間ハ三能共ニ活潑ニシ動作ヲ起ス故ニ人能ク是非ヲ辨シ事物ヲ思想シ過去ヲ臆記ス夢ニ於テハ然ラズ故ニ其狂ト稱スヘキ情態ハ三能一致セス動止相殊ナルニ由テ起レリ且起居ノ間亦分別ノ止息スルコトアリ即チ懶倦ノ時或ハ坐睡スル等ニテ屢經驗スル者

ニシテ是等ノ夢ハ假令記憶スルモ其之ヲ感得  
スル能力ノ休止スルニ由ルナリ此ノ如キハ平  
生間アルヲナリ○人ノ寤寐ニ依テ精神ノ活動  
スルト不トヲ以テ視レハ人ノ夢ミタルヲ聞  
テ之ヲ信シ之ヲ恃ムハ尤モ痴騃ナルヲ論ヲ竝  
タス况ヤ之ヲ以テ信賴スルノミナラス宗教ノ  
一大基礎トスルニ於テオヤ其荒唐不經ナル亦  
更ニ甚シカラスヤ然レモ耶蘇ハ聖靈ニ感ノ生  
レタル神ノ子ナリト信スルハ古往今來決ノア  
ルヘキノ理ナキ事蹟ナレハ是古人ノ夢ニ出タ

ル説ナルヲ必ヒリ即チ約瑟カ神使ノ來テ告ケ  
シヲ夢ニ其記ニ曰ク馬大傳第十一  
章第二十節思念ハ間使  
者夢ニ見ハレテ曰ク大闢ハ裔約瑟其ハ爾ハハ  
妻馬利亞ヲ取リ以テ歸ツケ蓋シ孕ハ所ハ者ハ  
聖神ニ感スルナリ○之ニ就テ予二三ノ談話痴  
兒ニ類セル者アリ曰ク此約瑟ハ埃及ニ往テ歸  
リシ已來千有餘年間歐羅巴全洲ノ人民ヲノ覺  
夢海中ニ漂溺セシム先覺者アリ其漂没ヲ援ケ  
ントノ自然ノ理ヲ陳ヘ心ヲ竭セシ人ヲハ頑悛  
ノ僧侶却テ之ヲ目ノ惡魔ノ所作トス若シ米國

革命ノ事微クモハ恐クハ一般人民ノ有スヘキ  
 權利ヲ占メ事物ニ就テ隨意ニ真理ヲ論破スル  
 ノ道闢ケサリシナラン此米國ノ亂ニ次テ佛國  
 ニ改革黨ノ蜂起セシ頃マテハ尚ホ此夢ノ宗教  
 ヲ講セシカ爾後一至リ漸ク之ヲ信スルヲ廢  
 止セントス蓋シ之ヲ講説スル者ト雖モ自ラ之  
 ヲ信スル者ハ尠ナカルヘシ然レモ彼レ尚ホ欺  
 詐ハ重要ナル寶貨ナリト信セリ此ノ如キ者豈  
 端人ト謂フヲ得ハナ○總テ新キ宗教ハ新樂譜  
 新舞曲ト同ク其説ヲ飾ル新衣ヲ披新曲ヲ謳テ

人聽ヲ聳動シ銜耀以テ觀客ヲ引クヲ要スル者  
 ナリ耶蘇ノ新説ハ新約書ノ滿篇聖靈ト稱スル  
 新奇ノ巧案ヲ出シ舊約書中猶太人ノ祖亞伯拉  
 罕ハ神使ト稱スル新奇ノ考案アリ神使ハ世ニ  
 住スル者トセリ耶蘇ノ生ル、前ハ聖靈ノトア  
 ルトナシ又亞伯拉罕ノ生ル、前ハ神使ト稱ス  
 ル者アルヲ聞カス且予此ノ如キ羽翼アル貴人  
 ノ世ニ住マシトテ聞カス蓋シ經典ノ年數ニ從  
 ハハ天地開闢已來二千有餘年間ハ神使ナル者  
 アルヲ知ラス是此年代中ニ造出セシ者ニテ爾



後神使ハ鳥ノ茂林中ニ群ルカ如ク飛躍セシ者  
 トス我人初メ授理樹創世記第十八章ノ下ニ神使アリ  
 シヲ聞ク此時三人ノ神使ハ撒拉ヲ訪ヒ而シ此  
 三鳥神使ヲ云フ竟ニ地ニ降テ或ハ食ヒ或ハ飲ミ而  
 ノ再ヒ天ニ升ホレリ此鳥ハ其前ニ臚陳セシ食  
 ヲ如何カセシテ經典其事ヲ記セズ恐クハ尋常  
 ノ鳥ノ為カ如ク飛翔ノ間其啄ヨリ脱落セシテ  
 ラン何トナレハ經典中ニ天ニ於テ其鳥ノ住ス  
 ル巢窠ハ何ノ所ニ在ルヤヲ記セケレハナリ或  
 ハ以為ク宗教ハ此ノ如キ粗糲ナル齟齬ノ談話

ヲ以テ數萬言ヲ累ネタル者ノミ決ノ人心アル  
 者ノ信ヲ取ル能ハサル者ナリ然トモ我輩ハ世  
 ノ僧侶ノ詐偽ニ惑溺スル人ハ何ヲ為ストソカ  
 輕忽ニ之ヲ信スルテ其然ル所以ヲ知ル能ハス  
 ○舊約書ノ神使ノ談ヨリ進ムテ預言者及ヒ魔  
 巫ノ談ニ論及セン此輩ハ即チ夢想ノ教法ヲ弘  
 宣セシ人ナリ而シテ夢ヲ口實トシ之ニ就テ教ヘ  
 タル人ヲ論セントス撒母耳記上第九章第十五  
 節ニ曰ク耶和華撒母耳ニ嘿示ハト然レニ其之  
 ヲ感得セシハ如何ナル方法ナリシヤヲ記セズ

同記下ノ第二十四章第一節ニ曰ノ耶和華復ハ以色列族ヲ怒リ大闘ハ衰ヲ眩惑スルニ任セ猶太以色列ハ二族ヲ核セシムト歴代史略上第二十一章第一節ニ曰フ如キハ即チ撒但以色列族ヲ害セシト欲シ大闘ヲ誘惑シ民ハ數ヲ核セシムト是同シ事實ヲ記セシ者ナリ○神此ノ如キ事ヲナセシハ大闘ノ眠リタル時ニ於テセシカ將ノ起坐ノ間ナリシキハ記セスト雖瓦彼ノ大闘ハ神ノ心ニ合ヒシ人ト稱セラレツ、何等ノ原因ヨリ此事ノ起リシヤ自ラ之ヲ知ラサリシ

ト云フ彼ノ神ノ嘿示ヲ受ケタル經典ノ著述者ト稱スル大闘ハ一ノ書ニ由テハ其心ヲ眩惑シタルハ耶和華ナリトシ他ノ書ニテハ之ヲ為セシハ魔鬼ナリト云フカ如キ此一專ニ就テ符合スル所ナシ○此ノ如キハ是宗教ノ嘿示トノ世ヲ欺ク所ノ新衣ナリ是即チ他ナシ詐偽ト鉾楯ノ語ヲ集合セシ者ヲ以テ聖經ト稱セリ是嘿示ノ宗教ト稱スル奇怪ナル小説ナリ○舊約書ノ作者ノ想像ノ如クニテハ耶和華ハ苛刻ニノ賤惡スヘキ邪神ナリ彼レ耶和華ヲ以テ猶太以色列

列ノ軍神トノ萬軍ノ主ト稱ス又僧侶ト預言者  
ノ如キハ之ヲ祭テト神トセリ此輩ノ所談ニハ  
ルキユレスノ説ノ如キ者多シ遂ニ耶和華ヲ  
ノ預言者或ハ約瑟等ノ腦ニ入テ夢ヲ成サシメ  
リ○彼等ハ法老ト神トヲ戰ハシムヘキカ如  
キ設ケヲナシ摩西ヲソ神ニ云ハシメタリ我レ  
手ヲ以テ海ヲ指セハ水ヲノ反テ其ヲ淹サシメ  
以テ車馬ニ及ハント而メ其語ヲ果シ得ニ為メ  
ニ夜深ニ及テ絲蹄ヲ紅海ニ張レリ以テ法老ノ  
全軍ヲ覆没セシハ實ニ大ナル面目ヨナ又耶和

道里之世 卷六 摩西傳

華摩西ト埃及ノ魔巫ト戰ヒシ談ハ尚ホ奇ナリ  
○摩西埃及ノ魔巫ト戰フ互ヒニ魔ヲ驅使ス何  
トナレハ共ニ兵刃ヲ交ヘシニ非サレハナリ而  
ノ魔巫ヲソ勝タシム其戰一夕ヒ終ルニ及テ又  
突戰シ互ニ秘術ヲ盡クス杖ハ化ノ蛇トナリ河  
ハ變ノ血トナリ或ハ蟾蜍ヲ出シ或ハ蠅蚋ヲ出  
ス而ソ灰ヲ散ソ瘡痍ヲ病マニム此瘡痍ノ為メ  
ニ魔巫遂ニ摩西ト頡頏スルヲ能ハス摩西カ此  
勝利ヲ以テ遂ニ戰ヲ終ヘリ○又神ヲノ火硫ヲ  
所多馬蛾摩拉ニ雨ヲシメ其火ハ西乃山ニ焰々

道里之世 卷六 摩西傳 三十四

クリ又神ヲノ羅得ノ妻ヲ鹽柱ト為シメタリ  
創世記第又神ヲノサクスビルノ女王マブノ  
十九章如ク僧侶ト預言者ノ腦ニ入テ神夢ヲ感セシム  
 此ノ如キハスヘテ詛譎ノ漫筆ナリ竟ニ撒但ヲ  
 ノ神ヲ封閉セシメタリ是後入ヲメ殆ト神ノ何  
 物タルヲ知ラシメサルニ至ル此ノ如キハ舊約  
 書ニ記スル所ノ神ナリ新約ニ記スル所其神ヲ  
 説シハ稍醜陋ノ風ヲ變シタリト雖凡尚ホ野鄙  
 ニ渉ル者多シ○人若シ僧徒ニ欺カル、片ハ偽  
 教ニ惑溺スル奴隷ト云ヘシ而ノ造物者ヲ想像

スル正大ノ思想ヲ起ス能ハス蓋シ誤テ神ヲ信  
 スルヨリ寧ロ神アルヲ信セサルヲ善トス若  
 シ我人ノ周圍ニ在ル所ノ世界ヲ視以テ無數ノ  
 星辰碁布ノ恆久不變旋回ノ止マサルヲ思ヘハ  
 新約書ハ其幾分ヲ記シタルヤ不ヤ苟モ心アル  
 者之ヲ知ラサルナカラシ此全世界ヲ統率スル  
 所ノ大能ヲ有スル神ノ經綸ノ錯誤ナキ者我人  
 ヲ之ヲ考究セシム豈此活經典ヲ辱ムハクン  
 ヤ永世不易ノ神或ハスヘテ眞實ナル事物中ニ  
 於テ夢想ノ神アルヘキ理ナシ而シテ只人ノ想像

ノ影響タル夢ヲ以テ神ト稱スルヲ能ハサル理  
ナリ夫レ真正ノ神ハ小説中ノ神ニアラス神ノ  
降生ノ刑架ニ死セシヲ信スルハ神ヲ誹毀スル  
者ト謂フ、シ是真理ヲ汙瀆スル者トラスヤ予  
夢ノ論ヲ終ルニ傳道第五章ヲ以テヒン曰ノ慮  
ハ多クハハ夢多シ節三又曰ノ夢寐多ハハ幻境  
ニ屬スト予今耶蘇降生ノヲ預言セシ者ト稱  
スル所ノ意味ヲ檢索論破セントス而ソ誰ニテ  
モ未來ヲ通知スル、言ヲナス者アル能ハサル  
理ナリ故ニ預言ト稱スル所ノ文ハ預言ニアラ

スノ渾テ是當時猶太國民ノ之ヲ記シ之ヲ語り  
シ時代ノ事情ニ關係スル者ニテ決ノ未來ノ人  
ニ係テ記シタル者ニアラサルノ理ヲ的示セ  
トス

道理之世卷六終

明治九年五月二日 版權免許

明治九年五月二日

版權免許



譯者

福島縣士族

深間内基

土佐国土佐郡雜喉場番地住

同縣平民

校正并出版人

干河岸貫一

東京築地三丁目十八番地

明教書肆

尾張町二丁目十八番地

森江佐七

飯倉五丁目三十番地

明教書肆支店

大坂高麗橋二丁目三番地

賣捌所

